事前の宣伝活動などでは、カンパや支援物資の呼びかけや各団体の機関紙に9000枚の折り込み、相談会のチラシを別に作成し宣伝活動などを行いました。
12時の段階で、230枚の整理券を配るほどの参加があり、最終的には300人を超える参加がありました。物価高による暮らしの厳しさを感じる1日となりました。
葛飾区から、6本入り30ケース入りの水、20ケース１２００ヶのビスケット、粉ミルクや衛生用品が届けられ、地域の方々からも厳しい状況の中で保存食品など多数の支援品をお寄せいただきました。
感謝やありがとうの声が大変多くの方から寄せられ、「助かります」「うれしかった」などの感謝の言葉が寄せられました。

葛飾連絡会ニュースNo. 10

イスラエルによるガザ地区への虐殺行為に抗議

練馬社保協

5月15日に練馬社保協では、イスラエルに対して、高齢者や子ども、女性などをはじめとするガザ市民多数が負傷し虐殺される非道は、国際社会の秩序と平和を脅かし、国連憲章にも違反し決して容認できないとして抗議文をイスラエル大統領と首相に充てて提出しました。
イスラエルによるガザ地域への軍事侵攻や市民への主権侵害に強く抗議し、これ以上の罪のない市民の尊い命を奪うことのないよう平和的解決に向けた外交努力を強く求めることを訴えました。

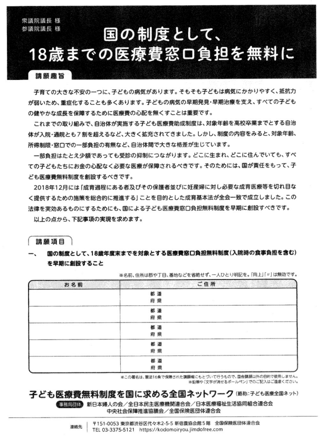
練馬社保協

国の制度として、１８歳までの医療費を無料に署名リスタート集会開催

子ども医療全国ネット

国の責任で１８歳まで医療費窓口負担を無料にの署名を２０２２年１０月から開始し、２０２４年５月２９日の段階で１４万５０６５筆の署名が全国から寄せられました。改めて署名を推進していこうと新署名を提起しリスタート集会を開催しました。

集会の中では、運動の成果としてペナルティーの廃止や２０１３年には１８歳までの医療費助成をしている自治体が１５７自治体に対して、２０２３年には１２０９自治体（全自治体の７割）となっていることが報告されました。新署名が下記の様に提起されました。



2024年度東京都議会第2回定例会開会日行動

都民連・東京地評・東京社保協

5月29日に開会される東京都議会の第２回定例会の開会日行動を都民連・東京地評・東京社保協の主催で開催致しました。
東京都議会議員からは日本共産党の米倉春奈都議が挨拶、各団体からは、都生連から窪田会長、東商連からは石嶋氏、新婦人東京本部からは佐久間会長、革新都政を作る会から中山事務局長よりそれぞれ決意表明されました

４の日宣伝行動

「４の日」宣伝行動
・6月14日(金)巣鴨駅前 12～13時

東京社保協ニュース

東京社会保障推進協議会
〒170－0005　東京都豊島区南大塚2－33－10
東京労働会館６Ｆ
TEL：03－5395－3165　FAX：03－3946－6823
東京社保協　検索

東京社保協第５４回総会を開催

２０２４年５月１８日（土）東京社保協第５４回総会 けんせつプラザ東京にて開催

総会議長には、都立病院の充実を求める連絡会の前沢淑子さん、東京土建の田村彰宏さんが選出され、塩野操副会長より開会挨拶が行われました。
来賓として中央社保協より林信悟事務局長よりご挨拶を頂きました。また、政党より社会民主党の伊地知恭子東京都連合幹事長、れいわ新撰組の依田花蓮参院政策委員、日本共産党の和泉なおみ東京都議団幹事長に会場でのご挨拶を頂きました。

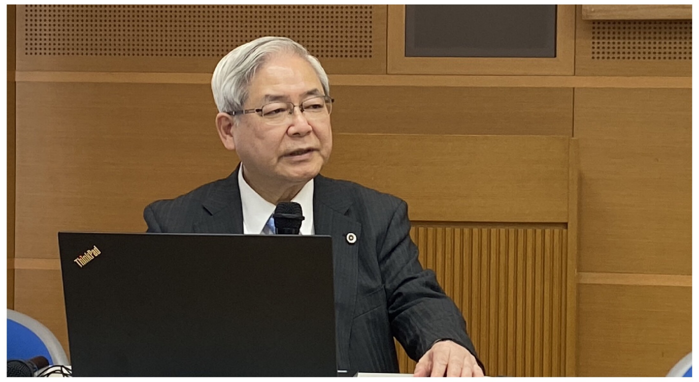
第５３期活動のまとめと５３期決算について、窪田光事務局長より報告を行いました。
各地で学習会の開催や行政への要請が行われ、特にマイナ保険証に関する学習会が多く開催され、計４４件の依頼があったことが報告されました。
日本の軍事費の増額や、米軍と統合司令部を作る動きが強調され、日本が戦争への道を進んでいると警鐘を鳴らし、日本の武器輸出政策の変化、経済と軍事が一体化する現状にあることが報告されました。経済政策が大企業に有利な税制を維持し、国民の生活は物価高騰で苦しい状況にあることを指摘、大企業の内部留保が増加する一方で、実質賃金が下がり続け、格差が拡大している現状も報告されました。社会保障費の削減が進むなか、地域での要求運動を強化する必要があると提起しました。
軍事費の増額や社会保障費削減といった問題点が強調され、これに対抗するための市民運動の重要性が再確認されました。今後の活動方針として、社会保障の拡充を求める運動の強化と、地域組織の再建が重要な課題とされました。

５４期の活動方針案と予算案を平野隆之事務局より提案されました。活動方針案では、軍事費の拡大ではなく社会保障の拡充を求める運動、国民健康保険制度の改善、介護保険制度の充実、年金制度の改革、障害者の権利擁護、子育て支援、最低賃金の引き上げなどが柱として掲げられました。また、憲法改正への反対運動、地域社会保障協議会の強化、学習会の開催、各種請願署名運動の推進等が提起され、議案や予決算が可決されました。最後に吉田章会長より討論のまとめが行われました。

退任する窪田事務局長・小川事務局次長と
吉田会長（写真右）・平野新事務局長（写真左）

2024年4月27日（土） 新生存権裁判 学習決起集会

4月27日、東京都で生活保護基準の引き下げに対する裁判、「いのちのとりで裁判」に関する学習決起集会が開催されました。弁護士でいのちのとりで裁判全国アクション共同代表の尾藤廣喜氏を講師に迎え、裁判の経緯とその重要性が詳しく説明されました。尾藤弁護士は、講演の中で2013年に実施された生活保護基準の引き下げが憲法違反の可能性があると指摘し、この問題の重要性を強調しました。彼は、全国で1万件を超える審査請求が行われ、29都道府県で1025人が提訴したことを紹介しました。東京地裁での勝訴判決を受けて、今後の最高裁の判断が極めて重要であり、生活保護制度の根幹に関わる重大な局面であると述べられました。



弁護団からは、東京高裁に向けて全国の裁判との連携についての発言がありました。特に神奈川の弁護団長から、東京地裁の判決が重要であり、東京高裁管内の裁判との連携が不可欠であると指摘されました。また、国が主張を変更してきていることへの対応についても言及されました

※集会では以下の行動項目が確認されました。
①署名活動を強化し、目標の5万筆を達成する
②地域での宣伝行動を積極的に行う
③6月13日の東京地裁判決日に向けて運動を広げる
④東京高裁に向けた戦略を立て、全国の裁判との連携を図る

決起集会での尾藤弁護士の講演の様子は、東京社保協のホームページから視聴することができます。右のＱＲコードからも視聴できます。

介護7団体政党懇談を開催

5月20日（月）衆議院第1議員会館内にて中央社保協や認知症の人と家族の会などでつくる介護7団体は「介護保険制度の抜本改善・制度改悪中止を求める政党懇談会」を開催しました。

懇談会には、日本共産党の宮本徹衆議院議員、倉林明子参議院議員、れいわ新撰組共同代表の櫛渕万里衆議院議員、社民党副党首の大椿ゆうこ参議院議員は議員本人が参加され、立憲民主党の石橋みちひろ参議院議員、吉田統彦衆議院議員の秘書に参加いただきました。阿部知子衆議院議員、無所属の上田清司参議院議員よりメッセージを頂きました。
懇談のなかでは、訪問介護の基本報酬引き下げ撤回要求について国会内でも与野党で一致する要求になっていること、全国で最も高い大阪市では月9000円を超える介護保険料の姿は数年後の全国の姿であり、介護保険は公的負担割合を増やさなければどうにもならない状態であることなど、野党の皆さんと一致する認識を深める懇談会になりました。

各地域・団体の取り組み

春のなんでも相談・食糧支援 相談して安心、支援は有難い

渋谷社保協

4月27日に渋谷社保協なんでも相談・食料支援を東京土建渋谷支部会館で、8団体17人の参加で実施しました。開催に先立ち、食料支援では代々木病院から非常食用の缶詰2種類計120缶、日生協からは冷凍されたフロチル赤魚煮つけ120袋を提供して頂きました。また、機関紙への折り込み、会場周辺地域約7000戸への案内チラシ事前配布、当日の街頭、商店街での宣伝などにより、当日は食料支援４０人、相談に１０人が会場を訪れました。
利用者からは「年金では暮らせない」「仕事を失ったら、職に就けないから今の生活はできなくなり不安だ」「政治を変えたい」など切実な声が寄せられました。
相談会は、遺産相続、投資の失敗による被害、物品管理契約などの法律相談、相続税対策、生活相談、住居環境、医療・介護相談など全部で10件あり、分野ごとに弁護士、議員、ケアマネジャー、社会福祉士など加盟団体のメンバーが対応し、対応をアドバイスしました。法律や居住環境などの相談は、今後も継続して相談に対応することにしました。医療・介護の相談や生活相談などでは、相談員が相談者の不安などに真摯に話を聞き、対応したことで、相談者は不安を和らげるこができ、安心して帰って頂けました。

渋谷社保協ニュースNo. 05

高齢者人権宣言で話題広がる

西東京社保協

西東京社保協では5月10日（金）15時よりひばりが丘駅南口にて駅頭宣伝を11名の参加で開催しました。宣伝の様子を立ち止まって聞き続ける女性や「今の政府には本当に腹が立つ」という男性からの熱い協力などがありました。現行の健康保険証を残してくださいの署名は32筆、訪問介護の報酬削減に抗議しますの署名は28筆も集まりました。
また、西東京社保協では、5月26日に定期総会を行い、記念講演で「訪問介護15年の苦闘と不安・希望を語る」というテーマで西東京在住の介護福祉士の方に講演をして頂きました。

西東京社保協

コロナ禍から「区民のいのちと生活を守る」生活支援・相談プロジェクト

葛飾・コロナ禍から「区民のいのちと生活を守る」連絡会

今回で10回目となる生活支援・相談プロジェクトを4月20日（土）14時から、コロナ禍から「区民のいのちと生活を守る」連絡会の主催で10団体から50名の方がボランティアとして、準備から片付けまで協力して開催しました。